

<平成29年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

兵庫県 神戸市立太田中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことの出来るものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等）を設け、
生徒が考える機会を作る



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



実施内容

- 期 日 : 平成30年3月19日 (月)
- 場 所 : 神戸市立太田中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (35名)、2年2組 (36名)
- オリンピック : 中尾 美樹 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・簡単な自己紹介の後、授業の流れを説明。今日の授業では、一生懸命取り組むこと、チームワークを大切にすること、感謝の気持ちを持つことを意識してほしいと伝え、準備体操に入る。

2. 準備体操



3. 主運動



・8の字跳び (90秒間×3回) を実施。終了後、中尾先生からは、各チームの中で意見を言い合い、様々なアイディアを出すことが大事であり、チームワークを意識しながら、失敗してもいいからチャレンジしてほしいと伝える。

4. まとめ



・運動の時間に意識してほしい3つのことを実践できたか確認し、意識の持ち方で結果は変わってくるので、運動の時間同様、普段の生活から意識して取り組んでほしいと伝える。
 ・次の座学の時間では、オリンピックバリューについて詳しく説明すると予告し、授業終了。



実施内容

■授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・中尾先生が出場したシドニー大会の映像を見せながら自己紹介。
- ・3つのオリンピックバリューについて、中尾先生の経験を通して感じたバリューを説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- ・発問：運動の時間を振り返って実践できていたオリンピックバリューについて考えてみよう。
- ・発表：2回目の方が多く跳べるように頑張った、目標を持って跳んだ(エクセレンス)、皆で意見を出し合った、チーム皆で声を掛け合った(フレンドシップ)、声を掛け合って気持ちを高めた、皆の意見を尊重し合って取り組んだ(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピックだけでなく、皆の日常生活でも感じることができるので、普段からバリューを意識して、これからの人生を豊かにしてほしいと伝え、授業終了。



実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年3月20日 (火)
- 場 所 : 神戸市立太田中学校
- ク ラ ス : 2年3組 (36名)、2年4組 (36名)
- オリンピック : 小林 祐梨子 先生 (陸上競技)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、オリンピックは遠い存在と思うかもしれないが、身近な部分もあるので、今日は皆で考えていきたいと授業の目的を確認。
- ・運動の時間は、頭と身体を動かそうと話し、今日は自分の意見を言ったり、自分の殻を破ってほしいと伝え、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・6班に分かれてリレーを実施。各回終了後に作戦タイムを設け、全3回実施。
- ・2人組を作り、1走は2人3脚、2走は目隠したペアを声で誘導、3走はボールをお互い片手で挟みながら運ぶことをルールとした。

4. まとめ



- ・人前で発言することは勇気があるが、殻を破ることで様々な結果がついてくる。オリンピック教室に限らず、多くの人の意見を取り入れ、自分の意見を伝える、協力することを取り入れてほしいと伝える。次の座学の時間でも、皆の生活と結び付けながらオリンピックについて考えてほしいと伝え、授業終了。



実施内容

■授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・小林先生はオリンピックに出場すること以外にも、学校の先生になりたいという夢があった。現役を引退した後、教員免許を取得したことを話し、夢や目標を叶えるためにできることを、オリンピックバリューに当てはめながら伝える。

3. グループワーク



- ・発問：夢や目標を実現するために何が出来るか考えてみよう。
- ・発表：一生懸命練習する、チャレンジする、継続(エクセレンス)、人の話を聞く、人の目を見て話す、相手を信頼する(フレンドシップ)、結果を振り返る、感謝の気持ちを伝える(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・皆の日常生活にもオリンピックバリューが関係しているので、自分にとってのバリューを考えてほしいと伝える。
- ・東京2020大会では選手として参加するだけではなく、「する・見る・支える」という視点から関わることができるので、様々なことに興味を持って取り組んでほしいと伝え、授業終了。



記録写真

■ 集合写真

2年1組



2年2組





記 録 写 真

■ 集合写真

2年3組



2年4組





記 録 写 真

■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 証明書贈呈

